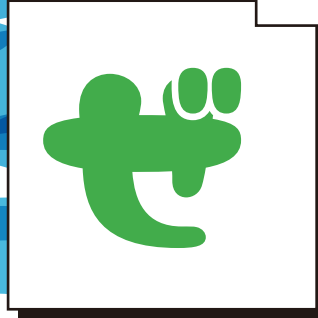


子どもと見守る人のために

なかがよくあそぼう



ジェピ太



あなたに夢を。街に元気を。



このパンフレットは、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

子どもと見守る人のためのパンフレット

- ・このパンフレットは、子どもと見守る人が一緒になって楽しく遊び、遊具と遊び場での事故を減らすことを目的として作成しています。
- ・また、**遊びの大切さ**について、わかりやすくお伝えすることも目的としています。
- ・**子ども**は、6歳を中心に、幼児から小学校低学年（3歳～9歳頃）を主な対象としています。
- ・**見守る人**は、保育所・幼稚園・認定こども園・小学校などの保育者・教員などと子どもの保護者などの大人が対象です。
- ・6歳前後の子どもは、遊具を使った遊びに慣れはじめると共に、動きも活発になる年頃のため、その後、小学校低学年にかけて事故が多くなります。
- ・このパンフレットを子どもが安全に遊ぶため、子どもと一緒に遊ぶ際のガイドとして役立ててください。

10のやくそく



マフラーなど
ひっきりり
やすいものはとる

Never play with your jacket flapping.

Never play on equipment wearing a backpack.

ランドセルや
カバンは
おいてあそぶ

Never play on equipment with loose shoes.

うわぎのまえを
あけっぱなしにしない

Never play on equipment with gloves or mittens with string.

ぬげにくい
くつをはく

ひもつけてぶくろを
しない

Never jump off the playstructure.

Never tie any rope or string to the playstructure.

ゆうぐにひもを
まきつけない

Never throw objects off the playstructure.

Never use a broken structure.

Never use the playstructure when it is wet.

うえから
ものをなげない

こわれたゆうぐで
あそばない

ぬれたゆうぐで
あそばない

見守る人の役割と位置

- ・見守る人には、子どもが安全に遊べる環境を作るという大切な役割があります。
- ・一人ひとりの子どもの年齢・能力や性格に応じて適切な遊びをうながし、小さな危険に挑戦できるようにすることで大きな危険を防ぎましょう。
- ・遊びを通じて様々なことを学ぶという**遊びの大切さ**を大事にしましょう。
- ・6歳までの子どもには、必ず見守る人が付き添ってください。
- ・3歳～9歳の子どもを見守る場合は、子どもの年齢や遊びの難易度・経験に応じて、**手が届く範囲・声が届く範囲・目が届く範囲**を定め、そこから見守ってください。
- ・多くの場合、見守る人が声を出すと、子どもの遊びが消極的になります。
- ・大きなケガになりそうな危険な行動をとっている時だけ、声や手を出すようにしましょう。
- ・普段から危ない行動や場所について、子どもと話をしておきましょう。
- ・遊び場からの飛び出しによる自動車・バイク・自転車などの交通事故にも、注意が必要です。
- ・遊び場内で遊んでいる自転車・キックボード・スケートボードにも注意しましょう。



手が届く位置



目が届く位置

声が届く位置



目次

- ・遊びの大切さと多様な危険性への対応について 3
- ・あそぶまえの ちゅうい 7
- ・あそぶときの ちゅうい 9
- ・あぶない あそびかたや ふくそうの子を さがそう! 11
 - ふくごうゆうぐ ぶらんこ
 - ネットクライマー ローブウェイ
 - すべりだい すなば
 - スプリングゆうぐ シーソー
 - ジャングルジム うんてい
 - てつぼう たいこはしご
- ・おわりに 17

遊びの大切さと多様な危険性への対応について

① 子どもの成長・発達と遊びの大切さについて

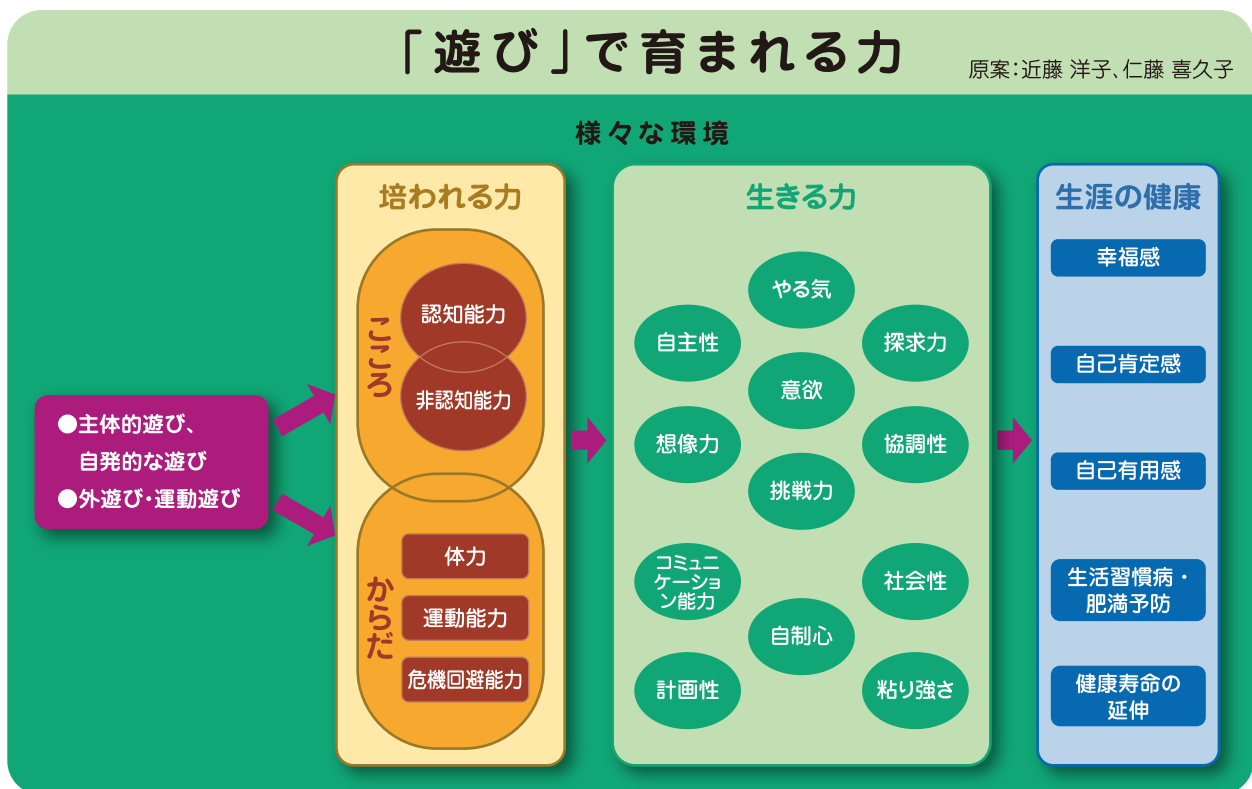
●子どもにとって「遊び」は、「学び」です。

- ・様々な環境を通して自由で自発的な遊びを行うことは、こころとからだの 発育・発達するうえでとても重要です。
- ・遊びを通して、こころに関することでは知能検査などで測れる認知能力だけでなく非認知能力※、からだに関することでは体力、運動能力、危機回避能力等が培われます。
- ・非認知能力に近い言葉として、文部科学省の学習指導要領などでは生きる力※という言葉が使われています。
- ・遊ぶ中で成功や失敗の経験をすることで「できること」と「できないこと」を学び、困難な状況から立ち直る力、レジリエンス※を身に付けます。
- ・これらの力は、積極的に豊かな人生を送るためにとても重要です。



「遊び」で育まれる力

原案：近藤 洋子、仁藤 喜久子



※非認知能力：意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力といった、IQなどで測れない内面の能力のこと。（日本学術会議資料 我が国の子どもの生育環境の改善にむけて 一生育空間の課題と提言2020ーより）

※生きる力：変化が激しく、新しい未知の課題に試行錯誤しながらも対応することが求められる複雑で難しい次代を担う子どもたちにとって、将来の職業や生活を見通して、社会において自立的に生きるために必要とされる力。（文部科学省中央教育審議会答申 平成20年1月17日 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善についてより）

※レジリエンス：人間関係、経済、健康などに関する逆境、トラウマ、悲劇、脅威などから起こるストレスにうまく適応する力。（アメリカ心理学会資料 The Road to Resilience より）

●外遊び・運動遊びの意義について

・遊びの中でも外遊び・運動遊びの意義については、以下の5点が挙げられます。

原案：近藤 洋子、仁藤 喜久子

①体力・運動能力

②健康的な体

③意欲的な心

④社会適応力

⑤認知能力

- ・楽しく身体を動かす遊びは、①体力や運動能力の発達、②健康で丈夫な体とともに、③様々な活動への意欲や情緒性、創造性などを育むことにつながります。
- ・外の遊び場で、同年齢の友だちとの遊びだけでなく、大きな子どもと小さな子どもと一緒に活動する場面では、お互いに気を配り、仲良く遊ぶことで、④社会性、協働性、道徳性や規範意識を培います。
- ・子ども期の全身運動は、⑤脳の運動制御機能や知的機能の発達促進にかかわり、将来の認知機能の維持・増進にもつながります。

②子どもの『やってみたいことへの挑戦』からの学び



危険を強調しすぎて、遊びの楽しさを奪わないようにしましょう。

●子どもの遊びの特徴と冒険心・挑戦心

- ・国土交通省の都市公園における遊具の安全確保に関する指針は、「子どもの遊びの特徴」で「子どもが遊びを通して冒険や挑戦をすることは自然な行為であり」と述べた後に、「子どもは、ある程度の危険性を内在している遊びに惹かれ、こうした遊びに挑戦することにより自己の心身の能力を高めてゆくものであり、子どもの発育発達段階によって、遊びに対するニーズや求める冒険、危険に関する予知能力や事故の回避能力に違いがみられる。」と説明しています。
- ・このような遊びに関わる子どもの特徴を踏まえて、子どもが遊びの中で、危ないことを予測・管理しながら、やってみたいことに挑戦し、その成功や失敗を通して身につく力は、危険回避能力や生きる力、レジリエンスとなって、生涯にわたって役立ちます。そこで、関係者の方々には以下のような子どもの特性を踏まえながら、子どもの遊びを見守っていただきたいと思います。

●子どもたちの冒険心・挑戦心に関する特性

*3-5歳：幼児期は屋外の遊びが大切で、特に冒険的な活動には、男児に限らず女兒も喜んで挑戦します。全ての子どもが、現状満足する活動のレベルから、少しでも上のレベルを目指せる環境が望ましいです。新しいことをどのように行うかを、自分で見つけながら学ぶことは、子どもたちの大きな自信と満足につながります。

*5-9歳：安全に関する知識とスキルを学ぶ事ができれば、この年齢段階の子どもは、危険制を広く理解して、自分自身の安全に配慮した行動が取れるようになります。とはいえ未熟な部分もまだ残っており、自分自身のスキルの限界を十分には理解出来ていないため、失敗も繰り返します。また、子どもたちみんなが、大なり小なりある種のチャレンジを欲しており、過保護すぎる環境には退屈してしまいます。



●「ベネフィット・リスク」の見える化に向けて

- 子どもたちの冒険心や挑戦心によって生じるリスクが、受容できる危険性「ベネフィット・リスク」なのか、受容できない危険性「ハザード」なのかという判断はなかなか難しい問題です。なぜなら、提供されるベネフィット（便益・効用）と、デメリット（事故やケガなど）のバランスを、下の図のように様々な要因を考慮した上で、主に定性的な情報を基に総合的な判断を行う必要があるからです。
- 英国では受容できるか、できないかを判別する具体的な方法として「遊びにおけるリスク管理」導入ガイドが2002年に発行され、欧米にも広く紹介されました。さらに、「ベネフィット・リスク」を積極的に提供するための方法として、ISO（国際標準化機構）の「余暇、レジャーおよびスポーツ施設の安全対策」を検討する国際委員会（ISO TC83）では、「ベネフィットリスクアセスメント」のISO標準化を進めており、当協会も参画しています。その概要を下のフロー図で説明していますので、遊び場の安全管理や、近年注目されている、多様な利用者を受け入れる「インクルーシブ・プレイグラウンド」の導入などにもご活用ください。



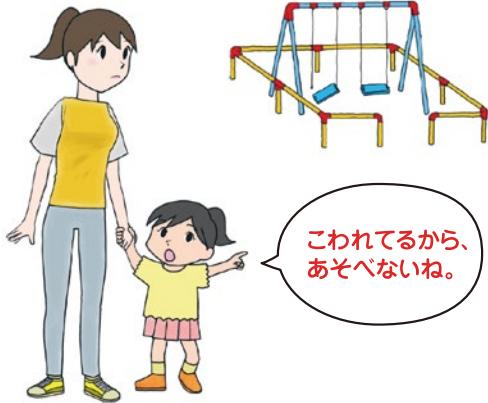


このページは子どもたちと一緒に読んでいただき、遊ぶ前の注意点について教えてあげてください。

① 遊び場は安全か？ あらかじめ確かめておこう



本来は管理者が注意すべきことですが、子どもを見守る人も注意して、事故防止にご協力ください。異常があった場合の管理者への連絡先も確認しておきましょう。



Check 子どもの年齢に応じた遊具があるか？
小さい子ども用の遊具と大きい子ども用の遊具の場所は近すぎないか？

Check 遊具は壊れていないか？

Check 遊具はぬれていないか？
砂などがまかれて滑りやすくなっていないか？

Check 遊具に SPマークはついているか？

Check 遊具の下や周りはコンクリートやアスファルトで固められているか？

Check 遊具の下や周りに、石やガラスのかけらなどが落ちていないか？
放置された障害物はないか？

Check 遊び場の内外で水の事故(池や噴水など)や交通事故にあう危険はないか？

② お天気は？



外遊びをするときには天候にも気をつけてください。炎天下では遊ばず、時間をずらして遊ばせてください。

Check 雨にぬれた遊具は滑りやすいので注意。

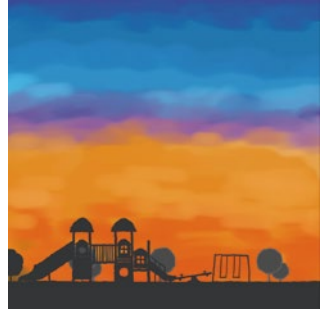


雨や雷が強いとき、光化学スモッグ注意報が出ているときは遊ばない。

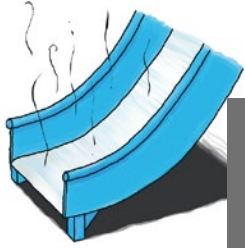
Check 熱中症、紫外線にも注意。
帽子をかぶろう。



Check 夕暮れ時は周りが見えにくいので注意。



Check 暑い日はやけどに注意



日射によりスチールやステンレスなどの表面は、夏場は 80 度近くの高温になる場合もあるので、注意が必要です。

③ 遊び場へ行くときは？

Check 安全な道をとおり、交通事故や不審者に気をつけよう。

**3 歳から 6 歳の幼児には、
大人が必ず付き添ってください。**

④ 遊ぶときの服装は？



子どもに、動きやすい服装をさせてください。引っかかったり、絡まったりしやすい服装、脱げやすい靴は危険です。肩掛けカバンや水筒のベルトなどが遊具のすき間・パイプの先端などに引っかかって重大事故に至った事例が数多くあります。また、靴が脱げるとバランスをくずして転倒・転落したりして危険です。足のケガにもなります。

Check 上着の前を開けっ放しにしない。



Check マフラーやひも付きの手袋はとる。



Check ランドセル、かばん、水筒、ヘルメットをはずす。



Check パーカーなど、首のまわりにひもやフードの付いた衣服を着ない。



Check 足に合った脱げにくい靴をはく。靴のテープはきちんと止める。靴ひもはしっかり結ぶ。



Check 苦しいときは、マスクをはずそう。



屋外で遊ぶ時にマスクを着用していると、呼吸が苦しくなったり、熱中症のリスクがあるため、十分な距離を保てる場合はマスクを外しましょう。

⑤ 体調は？



Check 適度に水分を補給しよう。



Check 体調が悪いときは遊ばない。



⑥ 重大事故を防ぐポイント



【頭】に注意：頭部への打撲や衝突は、重大な事故につながります。子どもは頭が大きく、バランスを崩しやすいとともに、隙間に頭が通れば身体も通るため、落下しやすいです。落下事故に注意しましょう。

【首】に注意：首を締め付けるような事故は、命に関わります。遊ぶ際の服装はもちろん、遊具の隙間に首を挟んだり、首に縄などを絡ませてはいけません。また、遊具の隙間に身体は通っても、頭が通らないこともあるため、注意しましょう。

【指】に注意：手指や足指を挟んだり、潰したり、切ったりすると、元に戻らない障害が発生することがあるため、注意しましょう。

【大人】も注意：大人は、いつの間にか体力や運動能力が低下しているため、事故に結びつく場合があります。また、すべり台などでは子どもを抱えていると、体の自由が奪われ、びんしょうな動きができません。

あそぶときの ちゅうい



このページは子どもたちと一緒に読んでいただき、遊ぶときの注意点について教えてあげてください。

① なかよくあそぼう

- Check おたがいに きをつけて あそぼう。
- Check ゆうぐで あそぶときは じゅんばんを まもろう。
- Check まえのひとを おしたり つきとばしたりしない。
- Check ちかくにいる 子どもの うごきに きをつけよう。
- Check あいだをあけて あそぶようにしよう。



② たいりよくにあった ゆうぐで あそぼう

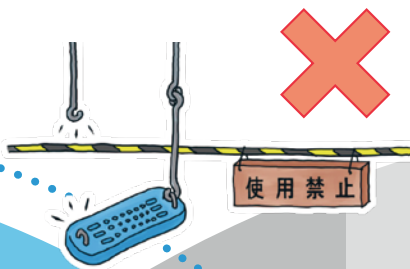
- Check ねんれいひょうじシールを さがしてみよう。
3つのシールがあるよ、あそぶときの さんこうにしてね。



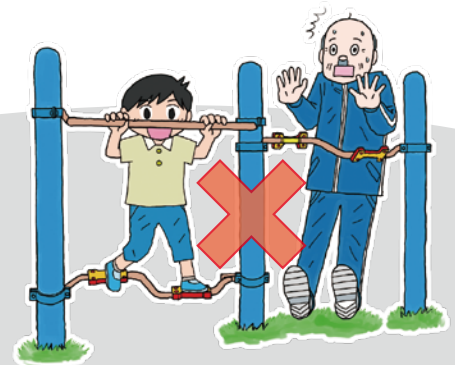
年齢表示シールは、一般社団法人日本公園施設業協会が遊具を安全に利用するために普及させているシールの一つです。左のシールはそれぞれ1-3歳、3-6歳、6-12歳向けの遊具であることを示しています。利用する遊具の参考にしてください。(P18 参照)



- Check こわれているゆうぐ、しゅうりちゅうのゆうぐ、しょうきんし（使用禁止）とかかわれているゆうぐではあそばない。



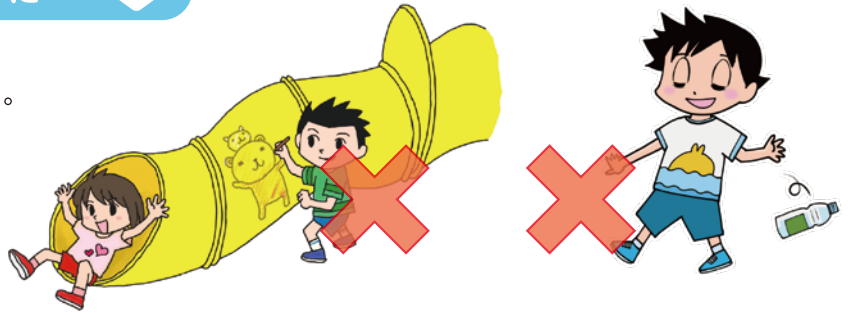
- Check けんこうきぐは おとなようなのであそばない。



③ ゆうぐと あそびばを たいせつに

Check ゆうぐを こわさないようにしよう。

Check あそびばを よごさない。



④ ケガをしたら?

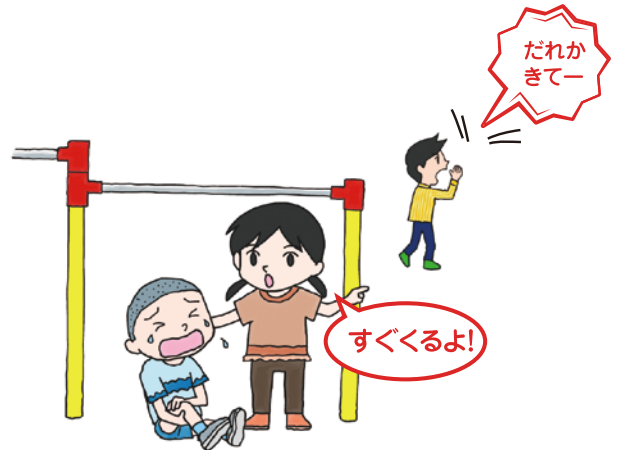
Check すぐにおとなをよぼう。
おとながくるまで ケガをした子と いっしょにしよう。

Check ケガをした子は なるべくうごかさない。

Check ぶつけたところは みずでひやそう。

Check ちがでていたら すいどうのみずで あらい
せいけつな ハンカチやタオルなどで おさえよう。
(ほかの子の ちにはさわらない)

Check おおきなケガのときには 119 ばんに でんわをして
きゅうきゅうしゃを よぼう。
きんきゅうの れんらくさきがあれば そこにれんらくしよう。



⑤ あそんだあとは てあらい・うがいを わすれずに

Check あそんだあとは みずのみばや せんめんじよで かならず
てをあらう うがいをしよう。

⑥ ほかの きけん

Check くるまやじてんしゃに ちゅういしよう。どうろに とびださない。

Check しらないひとに こえをかけられても ついていかない。



おかしをかって
あげるよ～





あぶない あそびかたや ふくそうの子を さがそう!



イラストには7-10ページの注意点を守っていない子どもがいます。子どもと一緒に探してください。

ふくごうゆうぐ



ぶらんこ

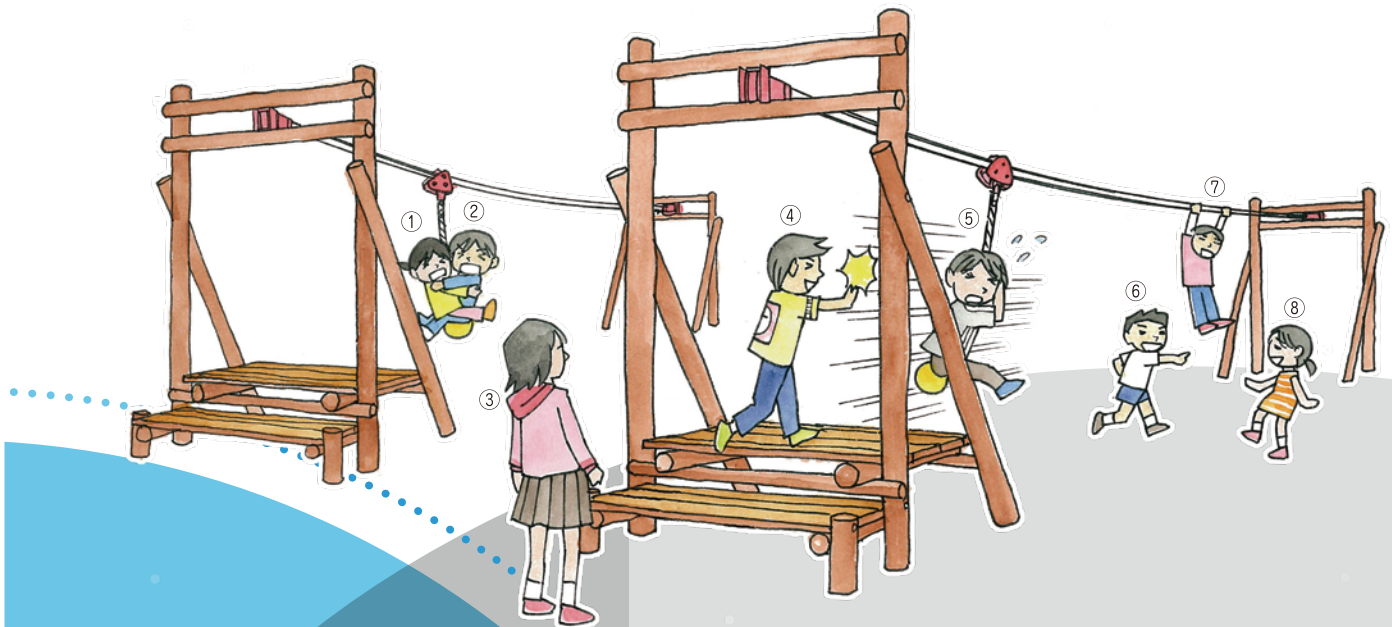




● ネットクライマー



● ロープウェイ





あぶない あそびかたや ふくそうの子を さがそう!

こたえは
17ページに



イラストには7-10ページの注意点を守っていない子どもがいます。子どもと一緒に探してください。



● すべりだい

● すなば

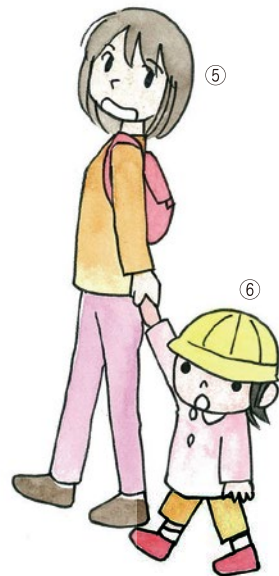




● スプリングゆうぐ




● シーズー



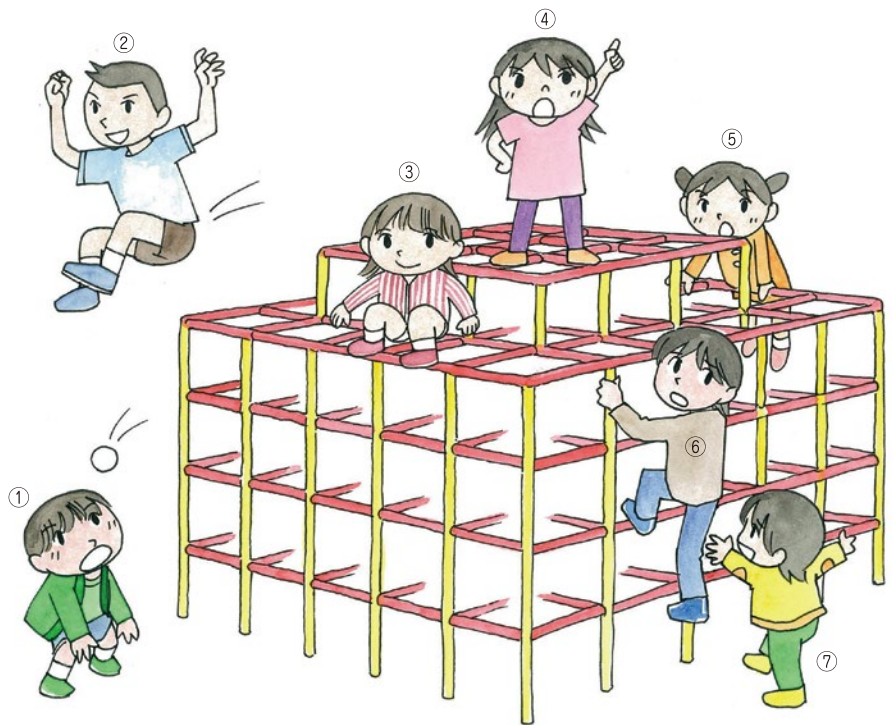


あぶない あそびかたや ふくそうの子を さがそう!

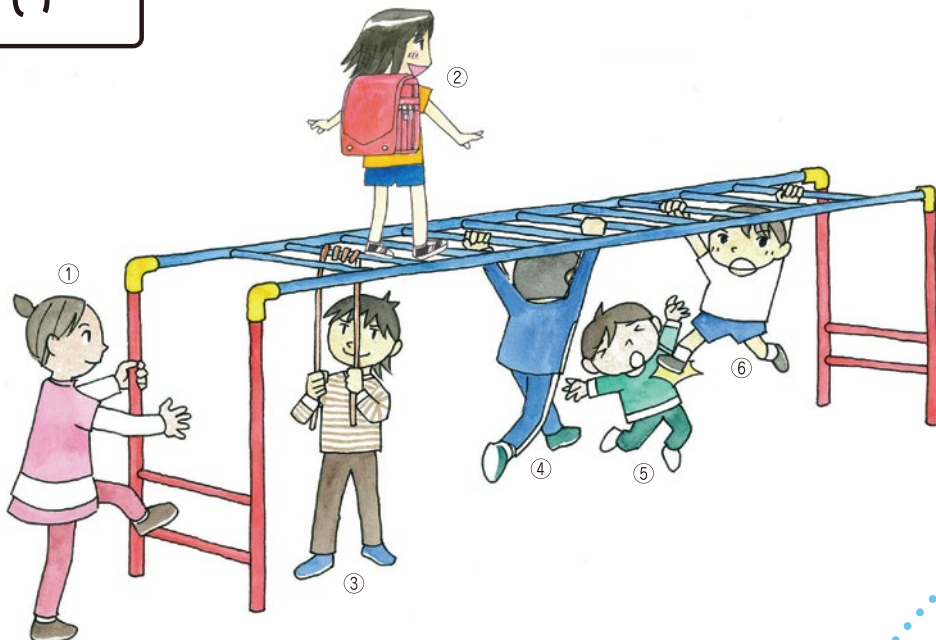

こたえは
17ページに

 イラストには7-10ページの注意点を守っていない子どもがいます。子どもと一緒に探してください。

ジャングルジム

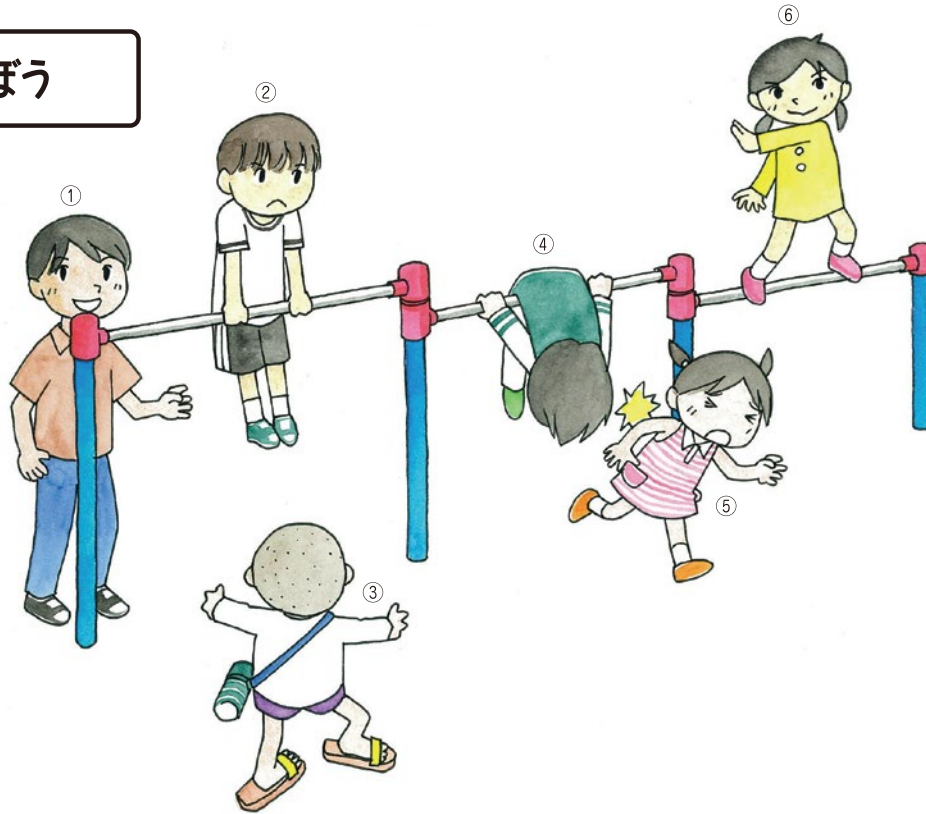


うんてい

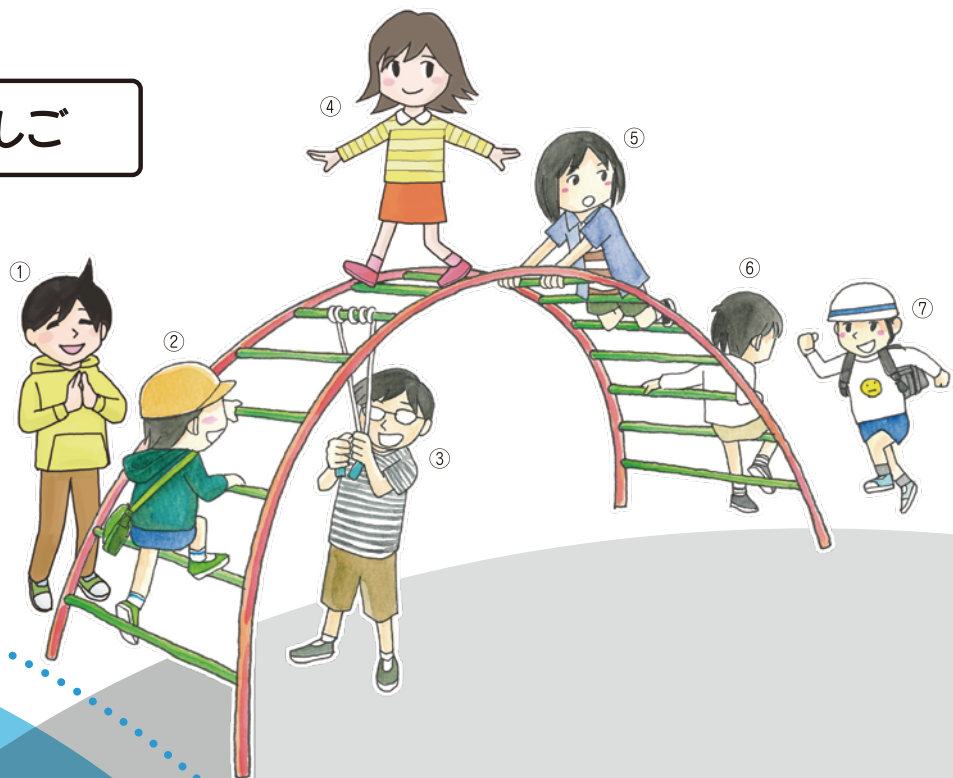




てつぼう



たいにはしご



おわりに

一般社団法人日本公園施設業協会(JPFA)の取り組み

JPFAは遊具を「つかう(子どもと見守る人)立場」「つくる立場」「まもる立場」「しらせる立場」の4つの立場から積極的な活動をしています。詳しい内容については、ホームページをご覧ください。お問い合わせください。

パンフレットを活用する場合は・・・

- ①このパンフレットの内容をできるだけ多くの方々に理解し活用していただきたいので、コピーは原則として自由です。ただし、内容等の変更利用はお断りします。
- ②引用する場合は出典(一般社団法人日本公園施設業協会「なかよくあそぼう あんぜんに 2022年版」と明記してください。
- ③ホームページにデータを掲載しておりますので、どうぞご利用ください。

「新しい生活様式」を心がけて公園を使おう! …… 4つのポイント

新型コロナウイルス感染症に備えた「新しい生活様式」の中では、心と体の健康を保つため、体を動かしたり、屋外でリフレッシュすることも大切です。以下の4つのポイントに気をつけ、マナーと思いやりを大切に、身近な公園を利用しましょう。

<h3>1. 体調が悪いときは利用を控える</h3>  <ul style="list-style-type: none">☑ 発熱、咳、のどの痛みなど体調不良の際は外出を控えましょう	<h3>2. 時間・場所を選び、ゆずりあおう</h3>  <ul style="list-style-type: none">☑ 混んでいると感じたら時間を変えるか、別の公園を探しましょう☑ 利用する時間は、いつもより短めにし、ゆずりあいましょう
<h3>3. 人と人とのあいだをあけよう</h3>  <ul style="list-style-type: none">☑ 他の利用者とは、できるだけ2m(最低1m)離れましょう☑ 十分な距離をあけられる時は、マスクをはずしましょう	<h3>4. こまめに手洗いしよう</h3>  <ul style="list-style-type: none">☑ みんながよく触れる場所に触ったあとは手洗いしましょう☑ 家に帰ったら、まず手と顔を洗きましょう

出典:国土交通省 報道発表資料(2020年8月7日)



ふくごうゆうぐ

- ⑤ふくのうしろがピンクの子 → はしらののぼらない
- ⑨きいろのふくの子 → うえにひとがいるときは のぼらない
- ⑪ちゃいろのふくの子 → すべりだいのそばに いかない
- ①クライミングをのぼっている子 → フードのついたふくを きない、すいとんをはずす
- ⑦あおのふくの子 → マフラーをはずす

ぶらんこ

- ③きいろのふくの子 → とびおりない
- ②みどりのふくの子 → はりに ぶらさがらない
- ⑤ちゃいろのくつの子 → プランコをこいでいるそばに いかない

ネットクライマー

- ④しろいふくの子 → ヘルメットをはずす
- ②リュックをせおっている子 → リュックをはずす
- ⑦オレンジのスポンの子 → フードのついたふくをきない、うわぎのまえを あけたままにしない
- ⑤ピンクのふくの子 → スマートフォンをつかわない、かばんをはずす
- ③メガネの子 → ゆうぐのはしらに のぼらない

ロープウェイ

- ③ちゃいろのスカートの子 → フードのついたふくを きない
- ④きいろのふくの子 → せなかを つよくおさない
- ⑦びんくの子 → ケーブルを にぎらない
- ①②きいろのふくの子と あおのふくの子 → ふたりに のらない

すべりだい

- ①むらさきのふくの子 → マフラーをはずす、かばんをはずす
- ③あおいふくの子 → かばんをはずす、たつたまま おりない
- ④きいろのふくの子 → フードのついたふくを きない、したから のぼらない
- ⑤しろいふくの子 → マフラーをはずす、すべりだいのそばに いかない

すなば

- ②ピンクのふくの子 → ガラスやきんぞくへんに ちゅうい
- ④ほしのマークのふくの子 → ひとに すなを かけない
- ①あおいろのはんズポンの子 → しぬやねこのファンに ちゅうい

スプリングゆうぐ

- ①しろいろのふくの子 → てをはなさない
- ②きいろのぼうしの子 → あそんでいるそばに いかない
- ④⑤ちゃいろのはんズポンの子としまのワンピースの子 → ふたりにのらない

シーソー

- ④みどりのふくの子 → たつてのらない
- ①しろいふくの子 → したにもぐらない
- ②あおのふくの子 → てをはなさない

ジャングルジム

- ④ピンクのふくの子 → いちばんうえて たたない
- ③あかのしまのふくの子 → ものをなげない
- ②あおとしろのふくの子 → たかいたんから とびおりない
- ⑦きいろのふくの子 → あそんでいるそばに いかない
- ①みどりのふくの子 → うわぎのまえを あけたままにしない

うんてい

- ②ランドセルをせおった子 → うえにのらない、ランドセルをはずす
- ⑤みどりのふくの子 → あそんでいるそばに いかない
- ③ちゃいろのしまのふくの子 → ゆうぐにひもを まきつけけない

てっぼう

- ⑥きいろのふくの子 → うえにのらない
- ⑥ピンクのしまのふくの子 → あそんでいるそばに いかない
- ③しろいながそでふくの子 → すいとんをはずす、サンダルをはかない

たいこはしご

- ③メガネの子 → ゆうぐにひもを まきつけけない
- ④きいろのしまのふくの子 → うえにのらない
- ②きいろのぼうしの子 → かばんをはずす
- ⑤あおのシャツの子 → うわぎのまえを あけたままにしない
- ⑦しろいふくの子 → ヘルメットをはずす、ランドセルをはずす



SPマークは安全・安心な遊具の目印です。

一般社団法人日本公園施設業協会(JPFA)が定めた「遊具の安全に関する規準」に従って製造された安全・安心な遊具であることを証明するマークです。

年齢表示シール



日本の遊び場に初めて導入した年齢区分が分かるシールです。遊具に合った年齢を示すことで大きな事故の回避に役立ちます。

遊具個別注意シール(例)



使い方によって事故がおきそうな遊具に直接貼って事故を回避するために作られたシールです。



パンフレット DL データ



JPFAホームページ
<https://www.jpfa.or.jp/>

メールアドレス: info@jpfa.or.jp

なかよく あそぼう あんぜんに 子どもと見守る人のために

編集・発行 一般社団法人日本公園施設業協会 (JPFA: Japan Park Facilities Association)
会長 内田 裕郎
〒104-0043 東京都中央区湊 2-12-6 TEL(03)3297-0905 FAX(03)3297-0906
発行年月日 2022年1月1日

「遊具の安全な利用方法の啓発資料作成委員会」

委員 大坪 龍太 (PSN: プレイグラウンド・セーフティ・ネットワーク代表)
(50音順) 荻須 隆雄 (元玉川大学教育学部教授)
木下 勇 (大妻女子大学社会情報学部教授)
近藤 洋子 (玉川大学名誉教授)

協会委員 内田 裕郎 (一般社団法人日本公園施設業協会会長)
高橋 晃裕 (同・副会長)
栗田 耕司 (同・広報委員長)
井口 義也 (同・専務理事)
山本 教夫 (同・特別参与)

見直しワーキンググループ学識者メンバー

大坪 龍太 (PSN: プレイグラウンド・セーフティ・ネットワーク代表)
近藤 洋子 (玉川大学名誉教授)
杉村 伸一郎 (広島大学大学院人間社会科学研究科教授)
仁藤 喜久子 (仙台白百合女子大学人間学部講師)

宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。



宝くじは、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、災害に強い街づくりまで、みんなの暮らしに役立っています。

一般財団法人日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。